クロマグロ漁業と漁獲枠

主任研究員　田口さつき

1　クロマグロの漁獲規制

日本政府は、2010年から太平洋クロマグロの管理強化に取り組んでいる。14年12月に「15年の１月からは①小型魚（30kg未満）の漁獲量を02年から04年までの年間平均漁獲量（8,015トン）から半減させる、②大型魚（30kg以上）の漁獲量を02年から04年までの年間平均漁獲量から増加させない」と発表した。そのため、農林水産大臣の管理する漁獲効率の高い漁業から知事が管理する漁業（沿岸漁業）までクロマグロの漁獲枠が設定され、漁獲量が制限されている。以下では、漁業種類別のクロマグロの漁獲量からクロマグロ漁業の現状をみていきたい。

2　漁獲量の推移

太平洋クロマグロの産卵場は日本水域が中心であり、大型魚（親魚）が産卵期の６月前後から産卵場周辺に集まる傾向がある。また、小型魚（未成魚）は日本周辺を回遊（一部は太平洋を横断して米国やメキシコの沿岸へ移動）する。そのため、日本の漁船が太平洋クロマグロを採捕している水域はほぼ日本の排他的経済水域内と重なっている。

農林水産省「漁業・養殖業生産統計」からクロマグロを漁獲する主な漁業種類ごとの漁獲量をみると、例年、大中型まき網漁業の漁獲量が最も大きい（第１図）。漁獲枠が設定されその影響を受ける期間ではあるが、17年以降の月別の漁獲量をみると、大中型まき網漁業は、クロマグロの大型魚を対象としており、漁獲量は６月に集中する傾向にある（第２図）。一方、知事管理漁業は一般的に小型魚の割合が大きく、漁獲状況は年、月によってもまちまちである（第３図）。知事管理漁業は、定置漁業やひき縄釣り漁業といった沿岸漁業である。

第1図　クロマグロの漁獲量の推移

資料　農林水産省「漁業・養殖業生産統計」より筆者作成

3　管理の方法の違い

第１表は20年漁期のクロマグロの漁獲枠の配分を示したものである。小型魚、大型魚別に漁獲枠が設けられ、さらに漁獲枠は、国の管理下にある大臣管理漁業と、知事の管理下にある知事管理漁業に分けられる。大臣管理

第2図　クロマグロの月別漁獲状況（大中型まき網漁業）

資料　水産庁サイト「太平洋クロマグロの漁獲状況について～令和3年11月10日更新～」（21年12月7日アクセス）
https://www.jfa.maff.go.jp/j/tuna/maguro_gyogyou/gyokakujoukyou.html

第3図　クロマグロの月別漁獲状況（知事管理漁業）

資料　第2図に同じ

農林中金総合研究所
https://www.nochuri.co.jp/

第1表 クロマグロの漁獲枠（2020年漁期）

（単位　トン）

			第6管理期間（当初）
小型魚（3,757トン）	国の留保分		345.6
	大臣管理漁業	大中型まき網漁業	1,500.0
		近海かつお・まぐろ漁業及び遠洋かつお・まぐろ漁業	62.0
		東シナ海等かじき等流し網漁業及びかじき等流し網漁業	44.0
	知事管理漁業		1,805.4
大型魚（5,132トン）	国の留保分		136.9
	大臣管理漁業	大中型まき網漁業	3,063.2
		近海かつお・まぐろ漁業及び遠洋かつお・まぐろ漁業	351.5
		東シナ海等かじき等流し網漁業及びかじき等流し網漁業	9.4
	知事管理漁業		1,571.0

資料　水産庁「海洋生物資源の保存及び管理に関する基本計画第1の別に定める『くろまぐろ』について」

第2表 漁獲量の変動率（1995～2009年）

	大臣管理漁業		知事管理漁業		
	大中型まき網漁業	近海まぐろはえ縄漁業	定置漁業	沿岸まぐろはえ縄漁業	ひき縄釣り漁業
平均値（トン）	5,359.73	392.80	985.33	860.40	1,035.40
変動係数	0.39	0.72	0.64	0.26	0.86

資料　第1図に同じ

第3表 漁獲量の変動率（2010～2020年）

10年から太平洋クロマグロの管理強化

	大臣管理漁業		知事管理漁業		
	大中型まき網漁業	近海まぐろはえ縄漁業	定置漁業	沿岸まぐろはえ縄漁業	ひき縄釣り漁業
平均値（トン）	4,148.00	256.00	1,462.27	572.36	1,116.73
変動係数	0.35	0.54	0.28	0.16	0.50

資料　第1図に同じ

（参考）漁獲量の変動率（2015～2020年）

15年から漁獲上限を設定

	大臣管理漁業		知事管理漁業		
	大中型まき網漁業	近海まぐろはえ縄漁業	定置漁業	沿岸まぐろはえ縄漁業	ひき縄釣り漁業
平均値（トン）	4,023.50	303.17	1,276.33	510.33	689.83
変動係数	0.14	0.53	0.36	0.12	0.19

資料　第1図に同じ
（注）　20年の数値は速報値。

漁業は、漁業種類別に漁獲枠が設定される一方、知事管理漁業は都道府県下の漁業全体として配分される。

4　漁獲枠の影響

漁業種類別の漁獲量の平均値と変動係数[注]について、クロマグロの管理強化に取り組む前（95年から09年）とその後（10年から20年）に分けてみたものが第２表、第３表である。この場合、変動係数が大きいことは年々の変動が大きいことを示している。

クロマグロの管理強化に取り組む前は、ひき縄釣り漁業、近海まぐろはえ縄漁業、定置漁業で変動係数が大きいことがわかる。クロマグロの管理強化に取り組んでからもひき縄釣り漁業、近海まぐろはえ縄漁業の変動係数は他の漁業種類と比べて大きいものの、管理強化前と比べ、他の漁業種類との差が少なくなっている。いずれの期間を通じても、大中型まき網漁業は変動係数が小さく、安定的に漁獲量を確保できていることがわかる。これは、大中型まき網漁業が産卵期に集まるクロマグロの群れを網でまく効率漁法であることが影響している。一方、近海まぐろはえ縄漁業やひき縄釣り漁業などの仕掛けを使う漁業や待ちの漁業である定置漁業はクロマグロの来遊状況に強く依存するため、年々の変動が大きい。そのため、過去の漁獲量の平均値に基づいて設定された漁獲枠を守ることは非常に難しい。唯一、沿岸まぐろはえ縄漁業は、変動係数が小さい、すなわち年々の変動が少ない。ただし、沿岸まぐろはえ縄漁業の15年以降の漁獲量平均値は資源管理強化前に比べ大きく減少している。

これは、大臣管理漁業は個々の漁業種類別に漁獲枠が設定されるのに対し、知事管理漁業は同じ都道府県内の定置漁業などの他の漁業と合わせた漁獲枠であることに起因する。16年、17年の定置網へのクロマグロの大量入網の影響などを受け、知事管理漁業分への漁獲枠が削減されるなか、ひき縄釣り漁業や沿岸まぐろはえ縄漁業での小型魚の放流や操業自粛・停止などが数値として表れたと思われる。

このように変動係数や漁獲量の推移からも知事管理漁業は漁業種類を多数含み、かつ、クロマグロ小型魚の来遊状況に翻弄される傾向が強いこと、そして、個々の漁業者が経済的な痛みを背負いつつ、漁獲枠を守っていることがわかるのである。

（たぐち　さつき）

（注）変動係数は、標準偏差を平均値で割って算出する。